

Ensemble14

第 12 回演奏会

Shirayasu

2007 年 2 月 18 日(日) 14:00 開演

上野学園 石橋メモリアルホール

本日はようこそお越し下さいました。

「Ensemble14」も早や12回の演奏会を数えることになりました。

このグループの最大の特徴は、アマチュア合唱団が取り上げるには、ソロ曲が多すぎて合唱曲が少ない為に今ひとつ食い足りない感の否めないカンタータの名曲の数々を、そのソロパートもメンバーで担当して歌う事で演奏してきたことであろうかと思います。

発足当初はこの無謀な試みに何とも言いようの無い歯がゆさを覚えたことは否めないのですが、彼らのドイツ語・ラテン語のテキストに対する取り組み、聖書の言葉へのアプローチを見るにつけ、私は欧州では当たり前の、一般教養をしっかりと身に付けた人間達が、敢えて行ってゆこうとする職業音楽家の姿を照らし合わせるようになりました。無論彼等は今後職業音楽家に成る為には余りにも忙しい日本のビジネスマン・キャリアウーマン・主婦で在る訳だし、日本の音楽事情を鑑みるに、そんな道を彼らに勧めようなどとは思っても見ませんが、彼等のこうした演奏活動は、逆に音楽家を志す者たち、とりわけ一番身近に接している私の音楽への取り組み方に、一石を投じてくれているように思います。

皆様もこんな活動にご一緒に参加されませんか！？ 本日は神が人の罪をあがなう為に行われた、最大にして最も高貴な奇跡、その大いなる痛みと苦しみを共に分かち合う為選ばれた唯一の「人」であり「女性」である聖母マリアの賛歌「Magnificat」を取り上げます。偉大なるバッハの280年以上もの昔に初演された作品の「magnificence」な美しさをお届けできればと思います。

毎回の事ながら私の大学時代の後輩達であり、日本を代表する器楽奏者が中心となって結成されたミレニアム・バッハ・アンサンブルの皆様が、私のような肥大な先輩をいつも優しい眼差しとお心で支えて下さっていることに、この場をお借りいたしまして心から感謝申し上げます。

指揮者 辻 秀幸



プログラム



作曲 ヨハン・ゼバスティアン・バッハ
Johann Sebastian Bach (1685-1750)

サンクトゥス ニ長調
“ Sanctus in D-Dur ” BWV238

カンタータ 10 番 『わが心は主をあげめ』
Kantate Nr.10 “ Meine Seel erhebt den Herren ” BWV10

(2) 室橋 明美[S] (3) 中西 隆紀[T] (4) 武内 崇史[B]
(5) 室橋 義明[T]、小田 奈穂子[A] (6) 羽田 耕太郎[T]

休 憩

マニフィカト 変ホ長調
“ Magnificat in Es-Dur ” BWV243a

(2) 北郷 博美[S] (3) 子井野 真貴子[S] (5) 木下 剛[B]
(6) 林田 素子[A]、安河内 誠[T] (8) 江端 員好[T]
(9) 赤木 詩子[A] (D) 崎谷 芳恵[S]、椿山 俊和[B]
(10) 鈴木 理恵子[S1]、湊 佳代[S2]、柿原 紀子[A]

指 揮 辻 秀幸

管弦楽 Millennium Bach Ensemble

声 楽 Ensemble14

《楽曲解説》

BWV 238 Sanctus in D-Dur

サンクトゥス ニ長調

1723年のクリスマスに演奏された合唱曲。

導入部におけるヴァイオリンの16分音符の刻みは、あたかも純白の雪が煌めいて清浄な光を放つかのよう…。また、徐々に増していく Sanctus の歌声も主への賛美が憧れとともに高みにむかって膨らんでいくかの印象を受ける。

後半は、それまでの4/4拍子にかわって12/8拍子のフーガとなり、神の栄光を寿ぐ調べが軽やかに展開される。

全体を通して「慶び」に満ちあふれた雰囲気のある曲です。早春の演奏会に相応しく、清々しく歌い上げたいと思います。

(楽曲解説：湊 佳代)

BWV 10 Kantate Nr.10 "Meine Seel erhebt den Herren"

カンタータ第10番「わが心は主をあがめ」

初演：1724年07月02日、ライブツィヒ

マリアのエリザベト訪問の祝日のカンタータ。マンフィカトのドイツ語訳に基づく詞をとり入れ、ラテン語マンフィカト第10楽章に用いられている聖歌の旋律（器楽）を第1曲（定旋律）・第5曲（器楽）・第7曲（コラール定旋律）に用いた、マンフィカトと親近性の高い作品。

1 コラール合唱

歌詞は、マンフィカトの1～4楽章のドイツ語訳となっている（ルカ；第1章第47節～第48節）。讚美の心のように湧きあがる器楽シンフォニアがカンタータの開始を告げ、喜ばしく上行する通奏低音はさながら民の歓呼のようである。バッハの曲では通常楽章を通じてソプラノに置かれる定旋律は、冒頭の讚美「わたしの魂は主を崇めます～」の部分がソプラノに、「この哀れな下女を～私を幸せな者と称えるでしょう。」の部分がアルトに置かれ、アルト部分にはトランペットの補強が入っている。

2 アリア(S)

歌詞は、マンフィカトの5楽章に対応したものとなっている。全能の神の御業が、活発なコンチェルト風のアリアで歌われる。

3 レツィタティーフ(T)

歌詞は、マンフィカトの6～7楽章に対応したものとなっている。神の憐れみと大いなる権力を語るレチタティーヴォ。具象性豊かに綴られており、「とこしえの憐れみ」への保続音と「靱がらのごとく散らす」の絵画的音型が特に印象的。

4 アリア(B)

歌詞は、マンフィカトの8～9楽章に対応したものとなっている。通奏低音とバスに与えられた活発な音型は、「騒ぎのモチーフ」とも呼ばれ、転落と上昇・空しさと豊かさの対比が、音型で的確に描き分けられる。

5 コラール付き二重唱(AT)

歌詞は、マンフィカトの10楽章のドイツ語訳となっている（ルカ；第1章第54節）。聖句による、憐れみの二重唱。背景では器楽が定旋律を奏する。のちにオルガン編曲（BWV648）された。

6 レツィタティーフ(T)

歌詞は、マニフィカトの11楽章に対応したものとなっている。

— その昔アブラハムに約束されたことは、マリアの受胎によって成就された — 頌歌（賛歌）にはない救済史の展望がここでは行われる。後半はアンダンテのアリオゾで末裔が増えてゆくさまを描く。

7 コラール(合唱)

歌詞は、マニフィカトの12楽章のドイツ語訳となっている。祈りをしめくくる定式、三位一体への頌栄誦が、4声のコラール楽曲として歌われ、全曲を閉じる。

(楽曲解説：小泉 孝博)

BWV 243a Magnificat in Es-Dur

マニフィカト 変ホ長調

初演：1723年12月25日（クリスマス）、ライプツィヒ

BWV243 マニフィカトの初稿。イエスを身ごもったマリアによる神讃美をテキストとした華麗な作品。バッハはライプツィヒのトマス・カントル就任初年のクリスマスの晩課に、この讃歌に加えてイエスの誕生を祝う4つの曲を挿入(A~D)し、上演したといわれている。

1 合唱

輝かしいファンファーレ風の器楽リトルネッロに続いて、「わたしの魂は主をあがめ」の合唱が繰り広げられる。地上のあちこちである民衆の歓呼が、ここでイメージされている。

2 独唱(S)

「わたしの霊は救い主である神を讃えます」。弦合奏のリトルネッロをもつ、軽快なアリア。讃美の主体が「魂」から「霊」へと進むのに対応して、音楽は霊的な軽みが支配する。

挿入曲A 合唱（4部）

ルターのコラール「高き天よりわれは来たれり Vom Himmel hoch da komm ich her」（1535）第1節による4声楽曲。定旋律（『讃美歌集 Geistliche lieder』〔ライプツィヒ、1539〕所収）は長い音価でソプラノに置かれ、アルトからバスの3声がポリフォニックにこれを彩る。

3 独唱(S)

「この卑しいはした女を顧み」の句とともに視点はマリア自身に注がれ、オーボエに導かれたソプラノが嘆きの調べを連ねる。マリアを悩める平凡な女とするルターのマリア観の反映と思われる。

4 合唱

マリアの幸いを代々の人々が讃えるさまが、力強い5声の合唱曲で描かれる。「すべての omnes」の語はカノンで受け渡されるうちにオクターヴをひとめぐりする。

5 独唱(B)

「力ある方が、わたしに大いなる事をしてくださいました」。通奏低音のみの伴奏による、威厳のある小アリア。

挿入曲B 合唱(SSAT)

きびきびとした通奏低音の伴奏を背景に、クリスマスの喜びを唱和する。

6 二重唱(AT)

シチリアーノのリズムによる叙情的な二重唱が、神の限りない「憐れみ」を描く。

7 合唱

全合奏（未登場のリコーダーを除く）が回帰し、「主は御腕をもって力をふるい」と力強く歌われる。「(おごり) 高ぶる者を追い散らす」さまが描写されたあと、アダージョの和声的なしめくりに入る。

挿入曲C 合唱

ルカ伝第2章14節による、ホモフォニックな力強く喜ばしい「グローリア」。器楽は概ね歌声部を重複するが、第1ヴァイオリンだけは、独立した動きを見せる。

8 独唱(T)

「権力ある者を引き下ろし、貧しい者を高くする」神の権能が、決然としたテノール・アリアによって、生き生きと歌い出される。ユニゾンのヴァイオリン+ヴィオラが旋律を主導する。

9 独唱(A)

また神は、「飢えている者を飽かせ、富める者を手ぶらで帰らせる」。終始平行して進む2本のリコーダーを従えた牧歌的な音楽は、羊飼いのイメージを想起させる。

挿入曲D 二重唱(SB)

「エッセイの枝に花が咲き」。通奏低音に導かれるソプラノとバスのカノンとして作曲されている。のちにカンタータ110番第5曲に転用された。第30小節以下は消失。

10 三重唱(SSA)

「主は、憐れみをお忘れにならず、僕（しもべ）なるイスラエルを助け」。
清澄な女声三重唱が進むうちにトランペット（BWV243ではオーボエ）がマニフィカトの伝統的な聖歌旋律を奏して入ってくる。

11 合唱

「われらの先祖にお告げになった通りに」。預言の真理性が、バスから始まる力強いフーガに表される。

12 合唱

天使の軍団の羽ばたきのような「グローリア」に続き第1楽章が短く再現され、輝かしく全曲を閉じる。

(楽曲解説：小泉 孝博)

《歌詞対訳》

Sanctus in D-Dur

Sanctus, sanctus, sanctus,
Dominus Deus Sabaoth;
pleni sunt coeli et terra gloria ejus.

サンクトゥス ニ長調

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、
万軍の神である主よ。
天と地はあなたの栄光に満ちあふれています。

(和訳: 湊 佳代)

Meine Seel erhebt den Herren

<Kantate zum Fest Maria Heimsuchung>

1. [Chor]
Meine Seel erhebt den Herren,
und mein Geist freuet sich Gottes,
meines Heilandes;
denn er hat seine elende Magd angesehen.
Siehe, von nun an werden mich
selig preisen alle Kindeskind.

2. [Soprans Arie]
Herr, der du stark und mächtig bist,
Gott, dessen Name heilig ist,
Wie wunderbar sind deine Werke!
Du siehest mich Elenden an,
Du hast an mir so viel getan,
Das ich nicht alles zähl und merke.

3. [Tenors Rezitativ]
Des Höchsten Güt und Treu
wird alle Morgen neu
und währet immer für und für
bei denen, die alhier
auf seine Hilfe schau
und ihm in wahrer Furcht vertraun;
hingegen übt er auch Gewalt mit seinen Arm
an denen, welche weder kalt noch warm
im Glauben und im Lieben sein;
die nackt, bloß und blind,
dei voller Stolz und Hoffart sind,
will seine Hand wie Spreu zerstreun.

4. [Basses Arie]
Gewaltige stößt Gott vom Stuhl
hinunter in den Schwefelpfuhl;
die Niedern pflegt Gott zu erhöhen,
daß sie wie Stern' am Himmel stehen.
Die Reichen läßt Gott bloß und leer,
die Hungrigen füllt er mit Gaben,
daß sie auf seinem Gnadenmeer
stets Reichtum und die Fülle haben.

わが心は主をあがめ

《マリア訪問の祝日の為のカンタータ》

1. [合唱]
私の魂は主をほめたたえ、
私の精神は喜びと感じます。私の救い主である神を。
なぜなら、神はこの憐れなはしためのことも
いつも見ていて下さったのですから。
見なさい、これからは、私のことを
この上なく幸福な者だと、全ての子孫がたたえる
ことでしょう。

2. [ソプラノ・アリア]
主よ、あなたは力があり、権威もある方です。
神よ、その名前は神聖です。
なんと素晴らしいのでしょうか、あなたの御業は！
あなたは、みじめな私をいつも見ていて下さいます。
あなたは私にとっても多くの物を与えて下さったので、
私はその全てを数え、覚えておくことはできません。

3. [テノール・レツィタティーフ]
至高の座にある方の慈しみと誠実さは
朝ごとに新たになり
そして、絶えることなく永遠に続く
今この時に
神の救いを仰ぎ見て
真の畏敬のうちに神を信ずる者のもとで。
神はまた、その御腕をもって力をもふるう。
信仰においても、愛においても
冷めていることも、熱くなることもない者に。
何も持たず、裸で、盲目の、
尊大さと傲慢さに満ちた者は、
神の手がくずのように散らしてしまうだろう。

4. [バス・アリア]
権力者を、神はその座から追い落とす
硫黄の沼へと向けて。
卑しい人々を、神は常に高め
そして彼らは空に輝く星のようになる。
富める者を、神は裸で無一文にさせ、
飢えた人々を、贈り物で満たす。
それゆえ、彼らは神の恵みの海で
常に豊かで、満ち足りている。

5. [Alts&Tenors Duett]

Er denket der Barmherzigkeit
und hilft seinem Diener Israel auf.

6. [Tenors Rezitativ]

Was Gott dem Vätern alter Zeiten
geredet und verheißen hat,
erfüllt er auch im Werk und in der Tat.
Was Gott dem Abraham,
als er zu ihm in seine Hütten kam,
versprochen und geschworen,
ist, da die Zeit erfüllet war, geschehen.
Sein Same mußte sich so sehr
wie Sand am Meer
und Stern' am Firmament ausbreiten,
der Heiland ward geboren,
das ewge Wort ließ sich im Fleische sehen,
das menschliche Geschlecht von Tod und
allen Bösen
und von des Satans Skalaverie
aus lauter Liebe zu erlösen;
drum bleibt's dabei,
das Gottes Wort voll Gnad und Wahrheit sei.

7. [Choral]

Lob und Preis sei Gott
dem Vater und dem Sohn
und dem heiligen Geiste,
wie es war im Anfang jetzt und immerdar
und von Ewigkeit zu Ewigkeit, Amen.

5. [アルト&テノール二重唱]

主は自らの憐れみに思いを致し
彼のしもべであるイスラエルを助け起こす。

6. [テノール・レツィタティーフ]

神が昔、祖先たちに
語り、約束したことを、
神は御業と行いで実現される。
神がアブラハムの小屋を訪れ、
その時彼に対して
約束し、誓ったことは、
時が満ちて、行われた。
彼の子孫はきわめて多く
海辺の砂のように
天空の星のように広がり、
救い主が生まれ、
永遠の言葉は肉体を伴って現れ、
人を、死と全ての悪しきものから

サタンへの隷従から
純粋な愛によって、救い出した。
ゆえに、ずっと変わらないままなのだ。
神の言葉が恵みと真理に満ちているということは。

7. [コラール]

賞賛と賛美が、神にありますように
父であり、子であり
そして聖霊である方に。
最初にあったように、今も絶えることなく
この先もずっと、永遠に、そうありますように

(和訳: 室橋 明美)

Magnificat in Es-Dur

1. Magnificat anima mea Dominum.
2. Et exsultavit spiritus meus in Deo salutari meo.
- A. Vom Himmel hoch, da komm ich her,
Ich bring euch gute neue Mär;
Der guten Mär bring ich so viel,
Davon ich singn und sagen will.
3. Quia respexit humilitatem ancillae suae;
ecce enim ex hoc beatam me dicent
4. Omnes generationes.
5. Quia fecit mihi magna qui potens est,
et sanctum nomen eius.
- B. Freut euch und jubiliert;
Zu Bethlehem gefunden wird
Das herzeliebe Jesulein,
Das soll euer Freud und Wonne sein.
6. Et misericordia a progenie in progenies
timentibus eum.
7. Fecit potentiam in brachio suo,
dispersit superbos mente cordis sui.
- C. Gloria in excelsis Deo!
Et in terra pax hominibus, bona voluntas!
8. Deposuit potentes de sede
et exaltavit humiles.
9. Esurientes implevit bonis
et divites dimisit inanes.
- D. Virga Jesse fioruit,
Emmanuel noster apparuit;
Induit carnem hominis,
Fit puer delectabilis;
Alleluja.
10. Suscepit Israel puerum suum
recordatus misericordiae suae.
11. Sicut locutus est ad Patres nostros,
Abraham et semini eius in saecula.
12. Gloria Patri, gloria Filio,
gloria et Spiritui Sancto!
Sicut erat in principio et nunc et semper
et in saecula saeculorum.
Amen.

マニフィカト 変ホ長調

1. 私の魂は主をあがめます。
2. そして 私の霊は自分の救いである神を喜び称えます。
- A. 高き天から、私はここに来て、
私はあなた方に、善き新たな知らせをもたらす。
その善き知らせを、私は無数にもたらし、
それについて、私は歌い、語ろう。
3. この方は この卑しい下女にも目を留めてくれました。
見なさい、今から後は 私を幸いな女と言うでしょう。
4. いつの世の人々も。
5. この方は私に大きな事をする、力ある方、
その名は神聖です。
- B. 喜びなさい、歓声をあげなさい、
ベツレヘムで見出されたのです
心から愛すべき、幼子イエスが。
そのことは、あなた方の喜びであり、至福なのです。
6. その憐れみは世から世へと
主を畏れる人々に及びます。
7. その腕で力をふるい、
思い上がった者たちを打ち倒します。
- C. 高き所では神に栄光がありますように！
地では心善き人々に平安がありますように！
8. 権力ある者をその座から引きずり下ろし
身分の低い者を引き上げてくれます。
9. 飢えた人々を良い物で満たし
裕福な人々は空腹なまま追い返します。
- D. エッサイの若芽は萌え出で、
私たちのインマヌエルが現れました。
人として肉を取り、
喜びの子が生まれたのです。
アレルヤ。
10. 自分の僕イスラエルを受け入れ
その憐れみを忘れることはありません。
11. 私たちの先祖に語ったように、
アブラハムとその子孫に対して永遠に。
12. 父に栄光がありますように、子に栄光がありますように、
聖霊に栄光がありますように！
初めにあったように、いつも、いつも、
そしていつの世でも。
アーメン。

(和訳:ラテン語部分/若林 敦盛、A、B/室橋 明美)

指揮 辻 秀幸

Ensemble 14 指揮者。東京芸術大学声楽科卒業 及び 同大学院独唱科修了。
声楽を渡邊高之助、宗教音楽を小林道夫、佐々木正利の各氏に師事。1985 年イタリアのミラノを中心にヨーロッパへ音楽遊学。L.グッアリーニ女史、F.タリアヴィーニ、H.リリングらの各氏に師事。1986 年イタリアのノバラ市国際声楽コンクール入賞。同年ドイツのハイデルベルク、1988・89 年にはウィーン楽友協会大ホール、2000 年にはカイザースラウテルン、パッサウ他、数都市でベートーヴェン“第9”のソリストを務め、ヨーロッパ各地でコンサートに出演し好評を博す。国内でもドイツ・イタリア・日本歌曲を中心に各地でユニークなリサイタル活動を展開している。オペラにも数多く出演し、その優れた演技力と歌唱は、新聞・音楽誌上でも度々絶賛された。宗教音楽の演奏家としての活躍は特に目覚ましく、バッハ・ヘンデル・ハイドンの宗教曲・オラトリオの演奏では、ソリスト・エヴァンゲリストまた指揮者として、その活動は常に注目を集めている。現在指導に当たるアマチュアコーラスは十数団体を数える。洗足学園音楽大学講師、尚美学園大学 新音楽集団「匠」指揮者、ぐるーぷ・なべ幹事、日本合唱指揮者協会会員、アンサンブル BWV2001 メンバー、iARTS 理事、NHKラジオ「みんなのコーラス」レギュラー解説者。
共著に「わかって歌おう - レクイエム発音講座」、「フィガロの結婚 発音講座」等の CD ブックがある。

管弦楽 Millennium Bach Ensemble (ミレニアム・バッハ・アンサンブル)

2000 年 4 月に田園調布教会で行われた「マタイ受難曲」演奏会において辻秀幸先生の呼びかけにより結成される。各方面で活躍中の若手演奏家からなる器楽団体。第2回演奏会以降、Ensemble14 との共演が続いている。

ヴァイオリン	大西 律子、長岡 聡季、廣海 史帆、磯田 ひろみ、宮崎 桃子
ヴィオラ	吉田 篤、多井 かな
チェロ	武澤 秀平
コントラバス	森武 大和
オルガン	能登 伊津子
オーボエ	工藤 亜紀子、加勢 麻衣子
ファゴット	井上 直哉
トランペット	平井 志郎、奥田 敏雄、高丸 智子
リコーダー	江崎 浩司、国枝 俊太郎
ティンパニ	井手上 達

声楽 Ensemble 14 (アンサンブル・フィアツェン)

辻秀幸先生のもとで J.S.バッハのカンタータを歌うアマチュア合唱団。1998 年 8 月結成。
ソリストは団内から選出し、プロのオーケストラ（現代楽器）と共演する演奏スタイルで、東京周辺にて活動。

[Ensemble 14 過去の演奏会]

1999 年 4 月	マタイ受難曲の抜粋演奏（ピアノ伴奏）に、「マタイを歌う会」とともに出演 （日本基督教団奥沢教会）
1999 年 9 月	第 1 回演奏会 カンタータ第 150 番、第 155 番、第 106 番 （ルーテル市ヶ谷センター）
2000 年 4 月	マタイ受難曲の全曲演奏に第 2 コーラスとして出演 （日本基督教団田園調布教会）
2000 年 9 月	第 2 回演奏会 カンタータ第 196 番、第 131 番、第 182 番 （神奈川県民ホール小ホール）
2001 年 3 月	第 3 回演奏会 カンタータ第 22 番、第 48 番、第 23 番 （すみだトリフォニーホール小ホール）
2001 年 9 月	第 4 回演奏会 カンタータ第 1 番、第 27 番、第 140 番 （川口総合文化センターリリア音楽ホール）
2002 年 3 月	第 5 回演奏会 カンタータ第 36 番、第 61 番、ミサ曲ト短調 （三鷹市芸術文化センター風のホール）
2002 年 9 月	第 6 回演奏会 カンタータ第 5 番、第 47 番、第 70 番 （四谷区民ホール）
2003 年 5 月	第 7 回演奏会 ヨハネ受難曲 （津田ホール）
2004 年 3 月	第 8 回演奏会 カンタータ第 17 番、第 44 番、第 139 番、モテット BWV227 （三鷹市芸術文化センター風のホール）
2004 年 9 月	第 9 回演奏会 カンタータ第 4 番、第 6 番、ミサ曲ト長調 （横浜みなとみらいホール 小ホール）
2005 年 9 月	第 10 回演奏会 マタイ受難曲 （日本大学カザルスホール）
2006 年 6 月	第 11 回演奏会 カンタータ第 8 番、第 99 番、第 105 番、第 187 番 （上野学園 石橋メモリアルホール）

指揮者：辻 秀幸

練習ピアニスト：田城 章子

代表：武内 崇史

副代表：内藤 秀司、小林 尚弘、三浦 貴博

練習指揮：椿山 俊和、羽田 耕太郎、室橋 明美

Soprano	浦沢 千代 崎谷 芳恵 湊 佳代	川村 昌子 鈴木 理恵子 室橋 明美	木下 祐子 高橋 磯美	子井野 真貴子 星 幸子	菅野 総子 北郷 博美
Alto	赤木 詩子 重野 真奈美	上田 暁子 竹内 望	小田 奈穂子 名倉 芳実	柿原 紀子 林田 素子	小林 愛子
Tenor	江端 員好 室橋 義明	北村 和也 安河内 誠	内藤 秀司	中西 隆紀	羽田 耕太郎
Bass	木下 剛 武内 崇史	小林 尚弘 椿山 俊和	佐藤 容司 三浦 貴博	下平 泰裕	菅野 松佐登



一緒に歌いませんか

Ensemble14 では一緒に歌って下さる方を随時募集しております。
バッハが大好きな方はもちろん、バッハが初めての方も歓迎です。

指導：辻 秀幸 先生 練習日：毎週土曜日（午前または午後）
練習場所：自由が丘、武蔵小杉など
お問い合わせ：小林（Tel: 090-3816-2565）
e-mail（info@ensemble14.org）
ホームページ：<http://www.ensemble14.org/>



第13回演奏会のご案内

2007 年秋

J.S.バッハ作曲	カンタータ 72 番	『すべてはただ神の御心のままに』	BWV72
	カンタータ 104 番	『イスラエルの牧者よ、耳を傾けたまえ』	BWV104
	カンタータ 116 番	『汝平和の君、主イエス・キリスト』	BWV116
	カンタータ 144 番	『おのがものを取りて、行け』	BWV144

後援

JCDA 日本合唱指揮者協会